

# 平成 28 年度 地域懇談会

日にち 平成 28 年 11 月 26 日(土)  
平成 28 年 11 月 27 日(日)  
場 所 健康文化センター1階多目的室

## ◇テーマ

「大口町消防団の現状と団員確保について」

## ◇タイムスケジュール

時 間		内 容
10:00～10:15 (13:30～13:45)	15分	○開会 町長あいさつ ○地域懇談会の主旨やテーマ、進め方の案内
10:15～10:30 (13:45～14:00)	15分	○テーマについて説明
10:30～11:35 (14:00～15:05)	65分	○意見交換等 座長の進行によりみなさんと意見交換
11:35～11:45 (15:05～15:15)	10分	○閉会 ○アンケートのお願い

## ■消防団の役割

消防団は、全国ほとんどの自治体で組織され、消防本部や消防署と同様、それぞれの市町村に設置される消防機関の非常勤特別職員で、複数の火災や大規模火災など消防署だけでは対応できない事例や災害時には、住民の安心と安全を守るという重要な役割を担います。

## ■大口町消防団

今の消防団が組織された背景には、明治に各字単位で組織されことから始まり、昭和14年に大口村警防団(9分団)が組織され、昭和51年に丹羽消防署が設立されたことで、常時消防の丹羽消防署と、非常時消防の消防団に分かれ、現在に至っています。

- 入団資格は、町内在住者で18歳以上の健康な方。
- 火災時には、消防署の消火活動をサポートするため、防火水槽や消火栓からのホース中継による後方支援や、周辺の交通整理や、残火処理による延焼防止を行います。
- 町周辺での連続不審火時には、夜間の町内巡視を行い、火災予防活動を行います。
- 水害時には、水防団として、町内巡視。時には避難誘導。河川氾濫や越水対策として土のう積みを行います。
- 地震などの大規模災害時には、救助・救出、警戒巡視、避難誘導など様々な活動を行います。
- 普段は、消火活動のためポンプ訓練や救命講習を行い、各行政区の防災訓練などに協力をしています。また、予防啓発団員による子供たちへの火災予防啓発なども行っています。
- 町より、年間報酬 73,000 円～57,000 円、出勤時報酬 2,500 円(1 回)を支払い。

## ○年間スケジュール

- |     |                     |
|-----|---------------------|
| 4月  | 任命式、ポンプ基本操作訓練(1回)   |
| 5月  | 実践操法訓練(5回)、水防訓練(1回) |
| 6月  | 大口町小型ポンプ操法大会        |
| 8月  | ポンプ基本操作及び中継訓練(3回)   |
| 11月 | 観閲式、火災予防町内巡視        |
| 12月 | 年末夜警                |
| 1月  | 丹羽郡消防出初式            |
| 2月  | 大規模災害訓練             |
| 3月  | 園児防火パレード            |

## ■大口町消防団の現状

市町村により、年齢層や団員数に違いがあり、所有している車両にも違いがあります。

- 他の町村に比べ、9分団と分団数が多く、各分団が小型ポンプ車（9台）を所有。
- 20～40歳代の団員数が多く、全国平均の50歳代と比べ団員年齢が若い。
- 全国大会（21年度）に出場し、日本消防協会からの最高峰の団体表彰である特別表彰まといを受賞。
- 火災予防の啓発を目的に予防啓発団員を設け、現在10名の女性で組織。
- 行政区とは、団員確保だけでなく、分団車庫の電気代、火の見の維持管理の支援を受け、盆踊りなどイベントの警備など地域活動を行っている。
- 行政区によりますが、各分団へ協力金を頂き、分団運営を行っている。

## ■現状の課題

団員が増えないことが主な課題となりますが、団員が少ないことによる課題もあります。

- 地域（分団）によって、団員の人数にバラつきがあり、少ないところでは他の分団から協力を得ないと訓練ができない。
- 消防団活動は、危険を伴うため、日ごろから訓練や講習、勉強会などスキルアップが必要であり、活動する日数が多く、懸念されることがある。
- 団員による団員募集を行っているが、友人、隣人など限界があり、団員勧誘の有効手段が見つからず、人員増加につながらない。
- 火災出動、活動時は、時間帯などによりに人員が少ないことがある。

## ○近年の火災時の出動状況

	場 所	幹 部	秋 田	豊 田	大 屋 敷	外 坪	河 北	余 野	上 小 口	中 小 口	下 小 口	計
H28.10 7時頃	中小口	3	1	3	3	0	4	3	2	1	3	23
H28.4 6時頃	上小口	3	0	2	2	0	3	3	6	2	3	24
H27.4 21時頃	御供所	2	6	4	5	0	5	6	4	1	7	40

\*火災時には、地域の分団だけでなく、消防団全体で活動を行っており、交通整理や残火処理など各分団の協力が必要です。

○消防団員数推移

年度	幹部	予防	秋田	豊田	大屋敷	外坪	河北	余野	上小口	中小口	下小口	計
定数	3	10	10	10	10	11	10	10	12	10	11	107
24	3	0	7	6	5	10	6	8	11	5	9	70
25	3	10	8	7	5	11	6	9	11	6	9	85
26	3	10	9	6	5	10	6	10	10	5	10	84
27	3	10	9	6	5	10	10	10	10	5	9	87
28	3	10	9	5	7	11	10	10	10	6	9	90

○年齢別 (H28)

(H28.4. 1現在)

年齢	幹部	予防	秋田	豊田	大屋敷	外坪	河北	余野	上小口	中小口	下小口	計
20代	0	0	1	0	1	1	1	1	1	1	4	11
30代	0	0	6	5	5	10	5	5	4	3	3	46
40代	2	10	2	0	1	0	4	4	5	2	2	32
50上	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

○団員勤務先 (H28)

(H28.4. 1現在)

会社所在地	幹部	予防	秋田	豊田	大屋敷	外坪	河北	余野	上小口	中小口	下小口	計
大口 (役場)	3	4	2	3 (2)	4 (1)	4	7 (1)	8 (3)	5	1	5 (5)	46 (12)
扶桑	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3
江南	0	2	0	0	1	0	0	1	1	0	0	5
犬山	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	3
岩倉	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
小牧	0	0	3	0	1	2	1	0	1	2	2	12
一宮	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2
北名古屋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
清須	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
名古屋	0	1	1	0	1	1	1	0	0	3	0	8
あま	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
弥富	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
豊川	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
県外	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
無職等	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
計	3	10	9	5	7	11	10	10	10	6	9	90

\* ( ) の数値は、大口のうち役場職